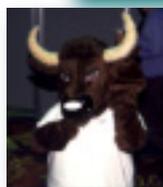
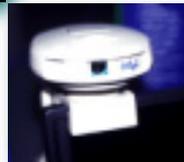


Report

次世代のソフトウェア・ハードウェアが結集!



インターネットワールド



10月5日から10月9日まで、米国ニューヨークのJacob K. Javitsコンベンションセンターにおいて秋のインターネットワールド98が開催された。業界のVIPがずらりと顔を並べる基調講演もいいが、やはりこのショーの見どころは名も知らぬベンチャー企業が思わぬ掘り出し物を見せてくれる展示会にある。明日のヒットを目指して結集した次世代のソフトウェアとハードウェアをニューヨークからレポートする。

編集部

インターネットのお楽しみはこれからだ!

最近、「インターネットに新しいものがなくてつまらない」という声をよく耳にする。だが、展示会場を見てみると事実はまったく反対で、むしろこれからますます面白くなりそうな雰囲気だ。

今年は「E-Commerce」、「インターネット電話」、「セキュリティー」、「SMIL」の4つのキーワードが目立っていた。そして興味深いのが、ほとんどの技術や製品が「ウェブ」をプラットフォームにしていることだ。とにかくすべてがブラウザの上で動いている。まだ手探り状態といった感じの「XML」製品も例外ではない。

インターネットでもっともスタンダードなブラウザが今のトレンドと聞けば「新しいものはない」と思っても無理はない。でも、その上で動いているものや、ブラウザを取り巻く状況はものすごい勢いで進化している。そして、今年のインターネットワールドもそれを見事に証明してくれた。

やはり、お楽しみはこれからなのだ。



インターネットワールド98の展示会場Jacob K. Javitsコンベンションセンター



リアルネットワークスのパートナーズパビリオン

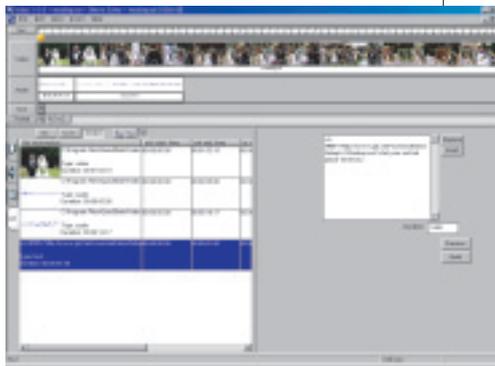
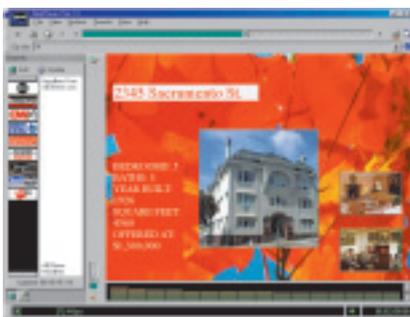
次世代マルチメディアは「スマイル」で決まり!

リアルネットワークスのパートナーズパビリオンでは「SMIL」(スマイル)対応のコンテンツ作成ソフトが数多く展示された。

SMILは動画や音声、静止画、文字など、異なるメディアを組み合わせたマルチメディアコンテンツを作るための言語で、リアルネットワークスの「リアルシステムG2」がこれに対応している。大きな可能性を持つSMILだが、クリエイターの心配は言語を意識させない作成ソフトがどれだけ多く登場するかに尽きるだろう。

今回の出展を見る限り、SMILとリアルシステムG2の未来はかなり明るいように感じた。パビリオンに集められた作成ソフトはどれも直感的に使えるものばかりだ。タイムラインに沿って素材を並べていだけで完成度の高い作品ができあがる。1つ1つの工程はドラマのシナリオを作るのによく似ている。作品ができあがると、SMILファイルの生成からリアルビデオのエンコーディング、さらにはサーバーへの登録までソフトウェアが自動的にやってくれる。

今回のパビリオンを見ていてふと感じたのだが、SMILを採用したリアルネットワークスの目指すものはWWWブラウザを超える第二のブラウザを生み出すことではないだろうか。そしてこの新しいブラウザは、テレビとインターネットが統合する時代にはマルチメディアのプラットフォームになっているかもしれない。



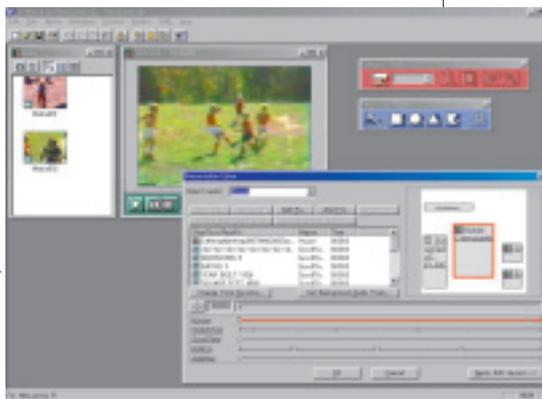
Video 1-2-3
発売元: QuadState
URL <http://www.quadstate.com/>

agent 7
発売元: 7th Level
URL <http://www.7thlevel.com/>

同じ作成ソフトでもagent 7はちょっと変わっている。なんと、メッセージを録音すると言葉どおりに口をばくばくさせてしゃべるキャラクターができあがる。キャラクターはウェブページに埋め込めるだけでなく、デスクトップにも登場する。これも、ストリーミングの新たな可能性を見せてくれた製品の1つだ。



マルチメディアコンテンツの作成だけでなく、作品をウェブページに埋め込むことまで考慮されている。Video 1-2-3には17種類のハイセンスなテンプレートが用意されており、ビデオファイルさえあれば5分もかからずに上図のようなビデオサイトが完成する。リアルビデオへのエンコーディングも自動的に行われる。



V-Active for RealSystem G2 2
発売元: Veon
URL <http://www.veon.com/>

V-Activeの優れた点はビデオに「ホットスポット」という領域を設定して、これをクリックするとウェブページにジャンプしたり、別のビデオを再生したりするような作品が簡単に作れることだ。ビデオの1か所にホットスポットを指定するだけで、被写体の動きに合わせて自動的に領域を移動してくれる。

個性あふれるハードウェアの数々

インターネットワールドには毎年、個性あふれるハードウェアが数多く展示される。今回は特に、1つの箱にサーバー機能だけを詰め込んだ「オールインワンサーバー」と、「インターネット電話」関連の製品が目立っていた。ほかにも、モバイル先進国の日本でも見たことがない「携帯型ストリーミング専用端末」や、モノラルのサウンドを3Dに変えるサラウンドボックスなど、アイデア勝負の製品が盛りだくさんの内容だった。

Video VAMOOSE
 発売元：Zulu Broadcasting
 URL <http://www.zulubroadcasting.com/>



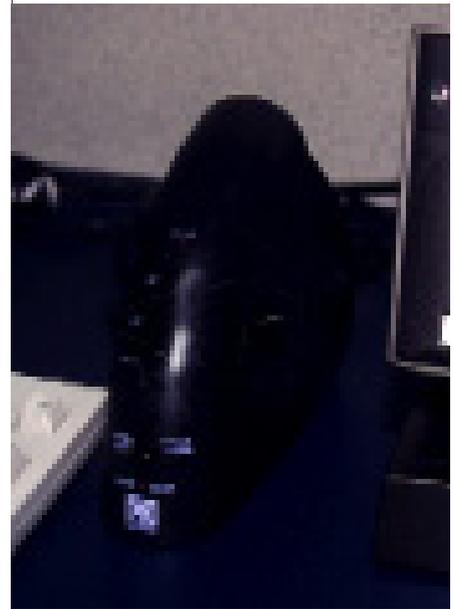
インターネットでストリーミングビデオを楽しむための専用端末、それがVideo VAMOOSEだ。56Kモデムを内蔵し、PCカードを挿せばイーサネットやISDNも使えるほか、専用のワイヤレスLANカードも用意されている。リアルプレイヤーG2による動画と音声の再生ができ、チャット機能も搭載。また、内蔵メモリーに10分の56Kbps用リアルビデオを録画できる。スクリーンの大きさは4インチ×6インチ。操作はすべてボタンで行う。発売元のZulu Broadcastingは「ZuluTV」という放送サイト(<http://www.ZuluTV.com>)も運営しており、自社のコンテンツを楽しむための端末としてこれを広めたいとのこと。

e.go ウェブサーバー
 発売元：encanto network
 URL <http://www.encanto.com/ego/>



999ドルの格安オールインワンサーバー。SSLに対応したJavaウェブサーバーのほか、SMTP、POP、FTP、HTTPプロキシ、DHCP、ローカルDNSなど各種サーバーも同梱されている。設定はすべてWWWブラウザから行え、簡単にウェブサイトを構築するためのウィザードも用意されている。通信インターフェイスは36Kbpsモデムと10Base-Tイーサポートを内蔵。また、e.goでウェブサイトを公開する際に、発売元のencanto networkが月々49.95ドルで接続サービスも提供する。InstantConnectと呼ばれるこのサービスは、誰かが自分のウェブサーバーにアクセスした瞬間にダイヤルアップするというとてもユニークなものだ。

ultraQ
 発売元：QSound Labs
 URL <http://www.qsound.com/cprod1.htm>



PCで、それもストリーミングで音楽を聴くという人にぜひお勧めしたいのがこのultraQだ。いつも使っているスピーカーにつなぐだけで、モノラルの音を「3D」(立体的)にする魔法の箱だ。価格もたったの59.95ドル。と、少々おおげさに言ってしまったが、ひと昔前のオーディオミニコンポに付いていた「サラウンド」と同じような効果と思えばいい。決して高品質ではないが、一度使い始めると癖になる。「Music」と「Games」の2モードがあり、ゲームユーザーなら迫力のサウンドを楽しむのもいいだろう。発売元のQsound Labsでは、ソフトウェアで同じ効果を出す「iQ」を19.95ドルで販売しているが、両方を聞き比べると明らかにハードウェア版のほうが3D効果が大きい。

Aplio/Phone
 発売元：Aplio
 URL <http://www.aplio.com/>

数あるインターネット電話の中でも、コンピュータなしでインターネット電話がけられるAplio/Phoneは一味違う。2台1組で購入して特定の2地点間だけでインターネット電話をかけられるというものだ。本体のボタンを押すと自動的にプロバイダーにダイヤルアップし、接続できたら両者の電話が同時に鳴るといった仕組みだ。通話は2地点間だけに限られるが、本社と海外支社など頻りに国際電話をかけるような場合には役に立つはずだ。さらに世界中どのプロバイダーからでも特定の相手につながるため、本体を出張先に持って行ってホテルの電話につないでもいいわけだ。全二重に対応して価格は2台で388ドル。これはお得だ。





AskJeevesのブース



文房具、特にポストイットでおなじみの3M Innovationがウェブページに貼り付けるポストイットを発表した。まず、コンテンツ提供者は専用ソフトを使ってウェブページに貼るポストイットを作る。この

中には文字や画像、動画を埋め込める。「明日10時からライブ中継やります」といった内容とともに、アーティストの写真などを貼っておくわけだ。さらに、10時にポストイットからアラームが鳴るように設定する。このページにアクセスしたユーザーはウェブページ上のポストイットをドラッグアンドドロップで自分のデスクトップに貼りつける。あとは想像どおり、10時になると「放送が始まるよ」と知らせしてくれるわけだ。なんといっても、ページを離れたあとのユーザーにコールを送れるという点が新しい。ユーザー用のクライアントソフトは無料、作成ソフトは99ドルとなっている。

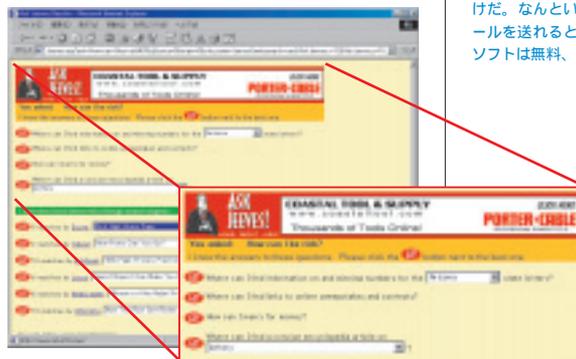
ウェブサイトを彩るニューカマーたち

今年会場に到着する前から「ウェブ」が重要なキーワードになると予想していた。「E-Business」一色だった2月のインターネットワールドから8か月。ウェブを取り巻く環境がどのように進化したかは今回の大きな見どころの1つだ。目立ったところでは、OpenSite Technologiesが発表したオークションサイト構築ツール「OpenSite Auction」や、XMLで社内の情報を管理するUWI.Comの「XFDL」などが挙げられる。だが、やはりインターネットワールドは隅の隅に明日の成功者が隠れている。このレポートの最後に「これは来年までに必ずブレイクする」と思われる3つの優れたプロダクトを紹介しよう。冒頭で述べたように、インターネットのお楽しみは本当にこれからなのだ。

Liquid Music Network
提供：Liquid Audio
URL <http://www.liquidaudio.com/>



AskJeeves.com
提供：AskJeeves
URL <http://www.askjeeves.com/>



デジタル化した楽曲のインターネットでの販売は、音質、著作権、不正コピーなどの問題が未解決のまま、なかなか成功例が出てこない。ところが、インターネットワールドの小さなブースに、非常に完成されたソリューションを持つメーカーがあった。エンコーダーやサーバーからプレイヤーまで、ずらりとプロダクトをそろえたLiquid Audioだ。特に、実際に1曲単位で楽曲を販売する彼らのサイト「Liquid Music Network」は一見の価値がある。楽曲を視聴する間はCDジャケット、歌詞、著作権などをプレイヤーから参照できる。リアルプレイヤー-G2とも互換性を持ち、ドルビーを採用した音質も申し分ない。プレイヤーに付いた「Buy Download」ボタンを押せば、ウェブサイトのショッピングカートにジャンプする。ダウンロードも暗号化によってセキュアに保たれ、ファイルにはしっかり「電子透かし」が入っている。自分のPCにファイルを保存したあとは、なんとプレイヤーのボタン1つでCD-Rに書き込める。現在、1曲の値段は1.49ドル。これだけの充実ぶりを見ると、来年あたりは大成功を収めていてもおかしくない。

自然な言葉で検索ができるサイトは日本にもあるが、今回のインターネットワールドに登場した「AskJeeves.com」はもっとすごい。自然な言葉で質問すると、本当に内容を理解しているかのように自然な言葉で回答してくれるのだ。

「How can I be rich?」(どうしたら金持ちになれるの)と聞いてみたところ、「-

州の宝くじの当選番号はどこですか。」「どうすればお金のために結婚できますか?」など、具体的な質問が表示された。「Go!」ボタンを押せば、それらの答えがわかるサイトにジャンプする。驚くことに「lottery(宝くじ)」という言葉を手短かに解説してくれる百科事典の場所は、という質問まで出てくる。さらに、エキサイトやヤフーなど6つの検索サイトに質問を投げる「メタサーチ」の結果も表示するが、この回答が個々のサイトでキーワードを検索した場合よりも、よりの確なものに絞られているから驚きた。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp